

前橋育英高校報

発行
前橋育英高等学校
広報編集委員会
印刷
上毛新聞社出版局

「建学の精神」の高揚を

理事長 中村 有三



『前橋育英高校報』 発刊に寄せて

前橋に「育英」ありと県下に知られるようになった前橋育英高等学校に高校関係三団体合同広報紙が創刊を迎えることとなりました。長年の念願であり、誠に喜ばしいかぎりです。

従来は「父兄会通信」(父兄会)、「雄渾」(同窓会)、「後援会報」(後援会)と三紙がそれぞれ個別に、発行されてきました。昭和三十八年育英高校創立以来、建学の精神の理解と普及に努めていただき、各会報紙に長年力を注いで下さった役員の方々には厚くお礼申し上げます。現在高校では、四十周年にむけて各種準備がすすめられております。「学園広報」の充実も重要なテーマとなっております。そのため「企画広報室」を設置したり、今回三団体合同広報紙



メキシコとの前哨戦で活躍する松田選手
(写真提供: 日刊スポーツ新聞社)

松田直樹選手 五輪で活躍

アトランタ/サッカー

を発刊し、学園広報の統合を図り、必要情報の共通化・共有化を推進し、建学の精神を浸透させていくこととしたものです。私は開校以来、二十一世紀のリーダーたる人材育成を目指し、父兄会・同窓会・後援会の三位一体となった支援体制のもと教職員と手を携え教育に全身全霊をささげてまいりました。今や千七百人をこえる生徒が学び、卒業生も一万三千人をようし、県

内外の各界各層で中心的活躍をしております。進学面においては、四年制大学合格者が三百人を超え進学校という評価をいただき、片やスポーツにおいては、オリンピック代表選手の輩出や、県総体男子総合優勝という名譽を幾度となく得て文武両面で優れた人材の育成に実績を残したことを喜びとしております。すべての私学教育の根幹は建学の精神に根ざしたものです。本校の掲げる道義教育の理念「正直」「純潔」「無私」「愛」が建学の精神ですが、戦後教育に欠けているいわば人間教育の精神が、現場の教師から事務職員にまで理解され浸透し、実践されねば意味がありません。学校は生徒が主人公であり、生徒に対する教育に近道はない

と銘ずべきです。生徒と共に生き、学ぶ場としての学校とはいかにあるべきかを考えていくことが今求められています。わが前橋育英高等学校の教育は知識偏重であってはなりません。文武両道、健康な身体を備えた個性豊かな生徒、人の痛みがわかる思いやりのある生徒を育成することによって、これからは社会に貢献していきたく願っています。二十一世紀は「育英高校の飛翔の時代」を合言葉に一層の発展のために、関係者の皆様と共に全力投球していく覚悟です。

合同広報紙の創刊は、まさにこうした観点から教育のあり方をとらえ、人材のあるべき姿に大きな指針を与えてくれるものと期待しております。

「世界の強豪を相手に大舞台で挙げた二つの勝利は、日本サッカーの歴史に大きな一ページを加えた。一略-中田(ベルマール)、伊東(エスパルス)、城(ジェフ)、松田(マリノス)、服部(ジュビロ)らも将来が楽しみだ。一略」(塩見要次郎、七月二十七日付読売朝刊)

二年後のワールドカップ日本代表レギュラーとなることを目標に、松田選手の今後の精進と活躍を期待したい。

わが育英高校卒業生の松田直樹(マリノス)選手のオリンピック壮行会は、七月五日(金)五時三十分から群馬ロイヤルホテルで、学園関係者、県サッカー関係者など多数出席して盛大に行われた。

松田選手は、壮行会に先立つ

サッカー部 全国大会へ

好敵手前商を下して二年ぶり七回目の全国出場を決めたサッカー部は、十二月三十一日に川越で、美鈴が丘高校(広島)と対戦する。

進/路/状/況/中/間/報/告

就職内定率100%

二学期は三年生にとって進路決定という大事な時期です。大

今年度の三年生の生徒数は、

昨年より約七十人減の総計四百八十四人。就職希望者は四十一人(男二十八・女十三)で、

推薦入試では、総計百九十六人の希望者がいました。その内訳は、指定校二十一人、国公立

大(短大を含む)十五人、私立大・短大百八人、そして育英短大五十一人。育英短大に関しては保育科四十七人、英語科四人です。現在、数人の推薦合格の通知が届いていますが、結果がすべて判明するのは十二月になってからになります。

と予想されます。昨年は四年制大学三百五人、短大百十五人と過去最高の実績を残しました。今年度はさらに前年度を上回る

平成9年度生徒募集要項決まる

べく全職員一丸となって指導にあたっていきますので期待したいと思えます。(進路指導部長 吉田幸一)

中学生の生徒数減少は当面のピークを迎えている。一部の私立高校では定員確保を期して、来年度の入試日程を繰り上げるなど必死の構えである。本校は昨年と同じ日程で行われるが、その影響の少ないことを祈りたい。

が、それはそのまま定員の充足にはならないことも認識している。本校の特色ある学校運営と充実した教育をとおして、受験生の目を育英高校に向けさせることが大切であろう。

大部分が併願者で単願者はわずか三十四人。単願者を増やしていくことが、育英高校のこれからの努力目標でもある。②の推薦は、普通科は男女とも定員の四〇割(今年度三〇割)、体育科・保育科・英語科は定員の過半数(三科とも今年度九〇割以上)とする。一芸推薦も実施するが、来年度は少し枠を広げる予定である。③の一般は、全科とも実施するが、体育・保育・英語科は、数人の枠しかない厳しい状況が続くと予想される。以上のような方針で、今年度はすでに夏期休業中から募集活動が始まっている。

このたび、育英高校関係三団体合同の会報が創刊されました。大変おめでとうございます。



頂点が見え、今が正念場

学校長 樋口良夫

大きな正四面体を形成してあります。生徒の成長につれて各面は大きく、強くなります。学校を包む四面体と提携しながら、ど

生徒の個に着目し、個を伸ばすことで全体の力をつけ、学力向上、心身の鍛練、スポーツ・芸術の発展、奉仕活動の日常化

何とぞ、三団体の方々から、お励ましと、ご助言の声をお掛けくださいますことを心からお願ひ申し上げます。

学校も普通・体育・保育・英語の四学科が、それぞれの特徴を持ちながら「正直・純潔・無私・愛」の道徳理念を重心に大

こから外力を加えられても決して倒れず、ぐらつかない強力な学園づくりが完成しつつある姿となりました。

など諸活動を実践しつつある本校は、頂点が見えてきた今が正念場を迎えたといえましょう。今こそ、われわれは創立期の

平成九年度生徒募集の基本方針が決定した。◎クラス定員は四十一人学級を原則とするが、普通科特進クラスは四十人、体育科は科の特殊性から四十三人学級とする。◎選抜方法は従来どおり①特待生試験②推薦試験③一般試験の三種で実施される。①の特待は今年度三千六百人を超える受験生があったが、

特待生および推薦試験 試験日 特待生 一月十七日 推薦 一月十八日 合格発表 一月二十四日 一般試験 試験日 二月一日(学力) 二月二日(面接) 合格発表 二月七日 ※詳細は募集要項をご覧ください。(教頭 高田 孝)

第五十一回国民体育大会は広島で開催された。夏季大会の水泳では百以自由形の高見沢が四位に入賞したが、OBの日向が百以背泳で見事に優勝を飾った。秋季大会には六競技に十五人の生徒、四人の先生、十一人のOBが出場し健闘した。中でもウエイトの活躍は目覚ましく、一年生の山田が二位に入賞、全国高校選抜・インターハイ優勝の中條は64kg級に減量し、三種目とも日本高校新記録で優勝、念願の三冠を達成、少年の部初優勝に大きく貢献した。

ボクシングでもライト級の吉沢とライトミッド級の窪田が三位に、バンタム級の竹内も五位に入賞し、競技総合成績で三位となる原動力となった。陸上の三段跳びに出場した長谷川は八位に入賞、OBの原・島田・狩野智也も入賞し、それぞれ期待にこたえてくれた。以下は国体参加者である。

水泳―高見沢道代(3E)、日向将一(1日大)

柔道―監督新井信雄教諭、西野公章(2A)、柴田純源(3A)、根岸篤史(2B)、斉藤隆広(2B)、町田陽弘(国土館大)

フェンシング―浅見直(3A)、中村博一(33)、須田貴行(1B)、砂山雄一郎(高商短)

多胡賢太郎(フレンドリー)、畔上裕嗣(日大)

中條桂良(3A) =ウエイト= 日本高校新で三冠

ウエイト―山田政晴(1A)、中條桂良(3A)、原徹教諭

島田秀仁(サンエス工業、コーチ榆原道雄)

(前橋教育委員)

陸上―長谷川敬洋(3B)、田中信也(1A)、林雅俊(3B)、

コーチ安達友信

教諭

ボクシング―監督湯本俊明教諭

竹内圭一(3B)、吉澤賢二(33)、窪田直起(3A)、萩原常仁(大阪商大)、天田広美(中大)

自転車―関口渉(あずみの)、狩野良太(法大)、狩野智也(YCST)、役員森清一教諭

(副校長 中川豊美)

英語科がオーストラリア研修

ホームステイで異文化体験

八月十九日から二十八日まで十日間、懸案であった英語科海外研修を実施した。育英高校英語科は、五年前までアメリカでの研修を実施していたが、湾岸戦争を期に中止していた経緯がある。しかし生徒、父兄の希望もあり、英語科としての特色を出すためにも必要と判断し再開した。

実施するにあたり、一番の問題点は安全面。アメリカ社会ではさまざまな事故が報道されている。そこで、治安の良さや親日家が多いと言われるオーストラリアを選んだ。

一学年一クラスとなった英語科にとって全員対象の研修は無理と判断、一〜三年生のクラスから希望者を募った。一年生の経費の問題、二年生の修学旅行との関係、三年生の進路決定の時期等の諸問題になるべく支障を来さぬよう配慮した。結局三十人が希望し、夏休み実施となった。オーストラリアは冬。蒸し暑い日本の夏から一気に冬を体験するが、日本の真冬と違いジャケットかセーターがあれば

ば十分である。

この研修の目的は、生の英語に接することと異文化体験。ホームステイの五日間がメインである。午前中は、シドニー市内の語学学校で会話を中心とした授業を受け、午後は授業の内容にあわせたアクティビティとして町に出て買い物したり、電車やバスの乗り方、水族館などの施設を見学。終了後は、各自でホストファミリー宅へ帰る。



シドニー湾にて・オペラハウスを望む

初めは言葉の聞き取りができて、話せないことを実感した生徒たちは、不安そうであったが、二、三日後には日本に帰りたくないと言いつつ出た。

この研修での大きな収穫は、生徒たちが実感したコミュニケーション

全館が空調 工事完了

全館空調施設設置は、父兄会臨時総会(六月二十九日)で学園への陳情が決議された。陳情の結果、教育環境の整備拡充と教育効果の向上は私学経営の根幹であるとの学園理事会の深いご理解のもと、他校に先駆けて実現された。

工事進行は、夏期休業中に騒音の伴う工事を集中的に行い、立地条件の悪い愛心館(体育科棟七教室)から着工。逐次奉心館(普通科棟十五教室、純心館(管理棟三教室)、誠心館(普通科・英語科棟十五教室)、最後に南棟(普通科・保育科棟

ーシヨンの大切さ。世界の共通語としての「英語をもっと勉強しておけば良かった」という切実な思いであった。澄みきった青い空と美しい景色。シドニーという大都市でのゆったりとした人々の生活ぶり。ゴールドコーストという観光地での楽しかった思い出を胸に、十日間という長いようで短かったこの研修の経験を今後、生徒たちがどのように生かしていくか、たいへん楽しみである。

(英語科長 高瀬元彦)

十六教室)と進められ、九月三十日に引き渡しが完了した。空調機種選定は、熱効率の良さとランニングコストの安い都市ガスによる機種に決定。設置台数は、室内機六十六台、室外機五十五台。設置教室数は五十六教室に及び、総工費は一億四千万円であった。また空調施設の運転・停止は各教室、職員室、事務室で操作が可能で、冷暖房の温度設定も各教室での操作とともに事務室での集中管理が可能となっている。この方式によって、生徒の体質による温度感覚の個人差等にも各クラスごとに検討しながら、きめ細かく対応し、より良い教育環境にできる限り近づけていきたいと考えている。

(事務長 稲葉祥二)

将来を語る

とれた学校

出席者

関根冠也(委員長・司会)、中田尚子、内藤敬子、斎藤香代子、太田千賀子、飯島章子、下飯有利子、成田和子、大石紘一(教頭)、根岸豊年(事務局)

父兄会文化専門委員座談会

父兄会だより

父兄会文化専門委員による座談会

が十月十二日(土)の午後二時から

本校事務長室で開かれました。出席

者は十人。熱の入った意見が多く出

され、予定の二時間が和気あいあい

の中であつという間に過ぎました。

以下はその概要です。

司会：皆さんこんにちは。今日はわれわれ父兄会の文化委員が「育英高校の現状と将来」といったテーマで座談会を開いたわけですが、皆さまには大いに語っていただきたいと思っています。育英高校の良いところ、悪いところというところがあると思います。が、まずは良いところの話から始めたいと思います。

A：まず一言でいえば育英高校には素晴らしい先生がたくさんいるということですね。私の子どもは保育科でお世話になっていますが、どの先生も公立には

ない熱心さ、情熱をもっています。それも押しつけではなく、生徒に考えさせ、物事を判断させるといった自主性を重んじる点では感心させられます。司会：私は育英高校第六期の卒業生ですが、いつ学校に行っても当時の先生がいて話ができる、これはやはり私立学校ならではのものではないでしょうか。

B：子どもからの話ですが、先日、先生方がロッカーの前でスニーカーのチェックをしていては取り上げられたと聞きま

したが。

学校：そのとおりです。シューズソックスについては、特別の日を除いては学校でも良いだろうと認めています。普通の状態で、かかとにたるみがかかったり、伸ばして膝までかかるスニーカーソックスについては禁止しています。教室で一週間指導した後、生徒指導部中心の登校時チェックとなりました。取り上げたシューズは指導のあと返されました。

しかし、本校卒業生の多くに聞いた話では、育英高校は他校に比べて、良い意味で比較的自由な校風で、伸び伸びとした学校生活を送れたとの評価でした。

A：女子のスポーツソックス、男子の腰に引っかけズボン等、今のおしゃれ感覚でしょうが、やはり学校でいけないと決められたことは、科とかクラスでの差がないように全員の先生で厳しく指導してほしいと思います。

C：生徒一人ひとりの意識の問題でしょうが、私もやはり厳しくやってほしいと思います。

D：子どもの話ですと、学校では規則に関しては比較的うるさくなく、生徒の意見をよく取り入れてくれるそうです。司会：それではスポーツ面に話題を移したいと思います。私が育英にいた時代は、強い部活といえは自転車競技部が主だったと思います。今の県総体での活躍が信じられません。今年の結果を教えてください。

学校：今年の県総体では、男子総合優勝を成し遂げ、昨年の雪辱を果たすと同時に、水泳、柔道、テニス、ウエイトリフティング、ボクシング、陸上競技の

六種目で優勝を果たし、素晴らしい成績をあげてくれました。

自主性重視に感心

比較的自由な校風

また、インターハイ予選ではサッカー部も優勝しました。明日から秋季国体が始まりますが、今回群馬県代表として先生四人、生徒十五人が出場しています。これも十分な活躍をしてほしいと思います。

F：育英は敷地も広く、施設も充実していますので部活動もやりやすいと思います。先生はたいへんですが、運動部員のための寮があるのも良いと思います。

G：部活の顧問の先生方が非常に熱心で、それが良い成績をあげられる一番の要素だと思います。また選手は体育科の生徒が中心のようですが、普通科の生徒もその中に入り、十分活躍していると聞いています。良いことだと思います。

E：私の子どもは、普通科で剣道部に入っていますが、部活での取り組みが甘く、体育科の生



六種目で優勝を果たし、素晴らしい成績をあげてくれました。

前橋育英高等学校 現状と

「文武両道」バランスの

座談会

徒に比べると真剣さがだいぶ違うと思います。勉強でも同じような傾向が見られ心配です。

司会：育英は文武両道をめざしているようですが、進学面・運動面とも頑張っており、バランスが良い状態だと思います。昨年度の進路状況はどうだったでしょう。

学校：平成七年度の四年制大学合格者数ですが、浪人も含めた延べ数で三百五十人と、三百人の大台を超えました。国公立も筑波大、金沢大、都立大をはじめ地元の前橋大学八人、高崎経済大学四人と計二十六人を数えました。そのうち現役が十六人もいたことは評価できると思います。短期大学も育英短大を含め百十五人になりました。

C：ともかく先生の指導が熱心で補習、ミニテスト等、一生懸命取り組んでくださいます。放課後も質問等で遅くまで子どもたちの相手をしてくださいます。

A：また一年生の時から模擬試験も多く、進学合宿、校内補習等、進路指導の取り組みが他の学校に比べて早いと思います。

E：今年から空調施設が各教室に整い、一年を通して、勉強しやすい環境になったのではないのでしょうか。

学校：空調施設では父兄会の皆さまには、たいへんお世話になりました。工事の完了した教室

から使い始めていましたが、九月三十日に正式に学校に引き渡されました。冷房、暖房の温度設定も教室のほか、事務室で集中管理できるようになっています。今後はより以上に教育効果を上げるべく、努力していきたいと思います。

G：環境は良くなってきましたが、真剣に取り組み生徒とそうでない人との幅が大きいです。ゆるゆる勉強にも真剣に取り組みない、かといって部活にも夢になれない、といった生徒をどのように指導して

ボランティアにもっと参加を 生徒ひとり人を大切に する学校へ

ださるか、これから考えてほしい点です。

司会：それでは今まで話題にならなかったことで何かありましたらお話しください。

B：私の子どもたちのクラスは、はじめの問題もなく、全体的な雰囲気は良く、子どもは気に入っているようです。しかし勉強でなくともよいのですが、何かに熱中するといった活気、覇気がないようで心配です。

F：先生方が何事にも熱心で、育英高校は自分たちで育てていくのだといった姿勢が感じられ

ます。

A：ボランティア活動にも熱心でJRCの週二回の清掃活動、インターアクトの募金活動、保育科の施設訪問、作業実習、有志による身体的障害者への協力等、たくさん話を聞きますがたいへん良いことだと思います。

D：校長先生がとても気さくな方で、話も庶民的で親しめます。G：先ほど運動部の話がでしたが、文化部の方も活躍している部がたくさんあります。先日の吹奏楽部の定期演奏会もたいへん見事な出来栄であったと思

います。

E：父兄会の役員さんのまとまりが良く、いろいろな研修会の参加数が他の学校に比べて多いと思います。またその報告を父兄会通信に載せていただけると

C：何でもそうですが、学費がたとえ高くても、それに見合う進学実績、運動実績、細かい指導をしていただけるなら父兄も納得すると思います。

司会：いろいろありますが、これからの育英に望みたいこと

を一言ずつお願いできればと思っています。



F：私は明るく生き生きとした生徒がたくさんいる学校にしてほしいと思います。

D：他の学校に行くと、すれ違ふとき、あいさつをきちんとしてくれるところがありますが、やはり気持ちが良いですね。あいさつがきちんとできる学校になつてほしいと思います。

G：具体的には言えませんが、育英生には育英しかない独自の校風づくりをめざしてほしいと思います。

B：いろいろな生徒がいると思いますが、良い子が目立っている

校であれば良いと思います。

A：ボランティア活動をいつばいする学校にしてほしいと思います。家庭と学校との連携が必要だと思います。

E：感じの良い生徒が多いと、他から評価される学校になるとを期待します。

C：進路とか規律だとかいろいろありますが、そういったこととは別に、生徒一人ひとりを大切にしている学校であつてほしいと思います。

司会：たいへん長時間にわたり、たくさんのご意見をいただきありがとうございます。今回は文化委員会の座談会ですが、こういつた会をいろいろなどちながら、父兄、先生、子どもたちとの距離が縮められ、学校が少しでも良い方向へ向かえば、親としてありがたいと思います。

ありがとうございます。

前橋育英

雄渾

同窓会
だより



文武両道に秀で 県高等学校の雄

同窓会長
関根 映一

親愛なる同窓会員の皆さま、
お元気ででしょうか。
日ごろから、わが母校、育英

高等学校がさらなる発展をする
ために、募金活動や、名簿作成
また同窓会諸行事にご尽力をい

ただき、会員皆さまに心から感
謝申し上げます。
この度、育英高校、三団体
(父兄会、後援会、同窓会) 合
同で広報を発行することになり
ました。創立四十周年へ向けて
紙面の内容の充実を図る目的と
して、効率的・効果的な側面か
ら運営し、実施することになり
関係各位の皆さまに感謝申し上
げます。

わが母校も、本年三十四周年
を迎え文武両道に秀で、群馬県
高等学校の雄として、発展して
おります。県高校総体男子六度

赤城山麓に築窯して十六年。
修業時代に入ると二十二年に
なる。作品は個展で発表。四十
回になる。食器・壺・花入れな
どオブジェ以外は何でも作る。
使うものを基本に作る。

湯のみ茶碗

第2期生 樺澤 健治 (陶芸家)



南蛮扁壺

一浪して英文科に入ったもの
の、その年は学生運
動の真つただ中だっ
た。休講ばかり。果
ては留年、落第であ
る。教師の夢を抱いていたが、
試験に二度落ちる。人生思いど
おりにはゆかぬものなどと言っ
ている余裕はなかった。
そのころ、何がそうさせたか
通りすがりの民芸店で湯のみ茶
碗を一つ求めた。益子焼であつ
たか。もう手元にはない。温も

りを感じて愛用していた。眺め
ては対話した。そのうち作って
みたいと思ひ始めた。しばらく
して、陶芸教室を知り、初めて
粘土というものを触った。が、
金がある。金がないので助手・
小間使いを条件に陶芸のイロハ

を習う。それからというもの、
行ったことのない画廊に通い、
さまざまな焼き物と出合う。夢
中だった。そのうち好みが出て
くる。数年を経て、意中の師と
巡り合い、修業生活に入る。
「好きなことで生活できて幸
せですね」とよく言われる。そ
うかなと思つが、いつも返答に
困る。例えば、ゴルフ。アマチュアには
ハンディというおま
けがある。プロにハ
ンディはない。すべて己の責任
個展という組上に己を、作品を
晒し、試し試される。気の抜け
ない、つらい仕事だ。しかし、
自分とできることは、これしか
ないと思つている。偶然出合つ
た湯のみ茶碗はダイヤモンドで
あつたかもしれない。

教育界は変革期 母校愛もち前進

中村 隆夫



の優勝、四年制大学合格者三百
人突破とスポーツに進学にと活
躍しております。またさらに育
英短大においては、「観光コー
ス」を開設しようとしていると
聞いております。
この間、多くの人材を輩出し、
今や一万人を突破するOB・OG
が、各界、各層において、活

同窓会の皆さま、お元気です
か。私は、昭和四十年四月に育
英高校教員として、赴任しまし
た。歲月の流れは誠に速く、瞬
く間に三十一年が過ぎ去つてし
まい、周囲を見回すと当時の良
き先輩の先生方が一人、二人と
学園を去っていました。創立間
もない本校の思い出を語る先
生も次第に少なくなり、一抹の
寂しさを感じています。
私は、第一期の卒業生を世の
中へ送り出して以来、病気ひと
つせず元気に毎日楽しく教育活

躍しております。こんなうれし
いことはありません。さあ、同
窓生の皆さん、元気で自分らし
く、朗らかに、人生を闊歩して
進んでいきましょう。
おわりに、会員皆さまのご多
幸を祈念申し上げます。あい
さつとさせていただきます。

勝し、関東大会で、あと一勝す
れば夢にまで見た甲子園出場。
しかし残念ながら国学院栃木高
に1点差で惜敗。返す返すも残
念でなりません。
現在、本校はスポーツ・進学
にすばらしい実績を残し、県下
有数の高校になりました。これ
も先生方が日夜、寝食を忘れて
熱心に生徒を指導してくださつ
ているたまものです。今、学校
教育界は変革期という大きな渦
の中にあります。同窓生の皆さ
ま、ご父兄、学校関係者が一致
団結し、母校愛をもって前進し
ていかなければならないと思
います。

親子2代同窓生

高橋 三夫(第5期生)・讓(第30期生)



昭和四十二年に入学。あれか
ら三十数年の歲月が過ぎ去り、
懐かしい面影も消え去らんとし
ています。この歲月は、さまざま
に私たち同窓生の身の在り方
を変えたようにも思えます。当

時を思い、写真でつ
づる三十年のあゆみ
『風のり、時にの
り』を久しぶりにめ
くって感慨を新たに
しています。
私は、現会社の異
動で東京から前橋へ
転勤となり、縁あつ
て母校の育英高校へ
足を運ぶ機会に恵ま
れました。そして在学中、たい
へんお世話になった(ご迷惑を
かけた?)先生方との再会を果
たして以来、同窓会活動などを
通じ母校育英高校との交流を深
め、育英高校三十年の節目、平

平成四年四月には第三十期生として子ども(讓)が入学しました。子どもが在学中の三年間は、同窓生父兄として父兄会活動に参加、幅広く先生方とも交流させていただきました。この間、生徒・父兄・同窓生に対し教職員が一体となって、心ある温かい関係をつくり、着実に信頼を築き、地域社会にしっかりと根

私の近況報告

差しているということが感しられ、私たち親子にとって、また同窓生にとっても本当にうれしいことと思えました。現在の育英高校は私たちの日常にたくさんの話題を提供してくれています。これは、先生・生徒・父兄が三位一体となって日々の課題達成に向けた努力の結果だと思えます。とても心強く思えます。

私は前橋を離れて四年。子どもは現在、独協大学二年に在学。クラブサークル活動にも参加し、学生生活を楽しく過ごしている様子など話します。友との出会い、恩師との出会い。人生にはさまざまな出会いがあります。そんな大事な出会いに感謝を込めて「出会い、ありがとう、育英」。

されました。当時は、自動車産業が急成長し発展し続けている時期でした。私は、車が好きで普通高校から技術を習得できる自動車整備専門学校に進みました。そして現在の会社に入社、サービス部に配属され社会人としてスタートしました。社内の各部署を経験し、今は営業部に所属し後輩の指導等、毎日忙しい日々を送っています。

た時、母校での体験を思い浮かべながら自らを奮立たせ、リフレッシュし頑張っています。育英高校で学んだこと、体験が自分の人生、社会に出てたいへん役に立っていることを強く実感しています。

でよかった」という安堵感でいっぱいでした。一カ月、二カ月と過ぎていくうちに安堵感が期待感に変わり、明日はどんな姿を見せてくれるのだろうか楽しみになりました。遊びも友達とのかかわりが深まり、絵本やアニメの主人公になりきっている姿がとてかわいかったです。『ごっこ遊び』にまぎせてもらって一緒に遊んでいるこのころです。

自分に厳しく、他人へは優しい

第10期生 新井 富夫
(伊香保町役場勤務)



私が育英高校を卒業したのは、昭和五十年。あれから二十一年もの月日が過ぎ、自分の子どもも今年、高校生となり昔の自分を思いおこす年齢だと思ふ今日このごろです。

卒業と同時に伊香保町役場に勤務。現在は住民課に配属されています。その間、スケートセンターに配属されていたときは、

スケート教室で育英生にも訪ねていただきました。そして懐かしい柔道の新井先生にもお会いすることができました。役場にも育英卒業生が五人います。

実は私の妻も育英高校第九期生で、高校の思い出・話題と共通するものがあります。新聞紙上などで育英高校の活躍が報じられると二人で一喜一憂し、懐かしんでいます。この妻との間に四人の子がいます。長男・高一、長女・中二、二男・小四、二女・一歳となぜか男女交互に生まれました。そして私の両親も一緒に暮らしているので、今では珍しい八人という大家族です。毎日にぎやかな日々を送っています。特に二女がかわいられているのは想像できるでしょう。

今後も勉学・スポーツに群馬県の私学の雄として、また自分に厳しく他人に優しい人間として、後輩の皆さまのさらなる飛躍を期待し私の近況報告とさせていただきます。

母校の体験思い 浮ベリフレッシュ

第4期生 寺村 信一
(群馬三菱自動車販売(株)勤務)



同窓会新聞編集部の吉田先生から原稿依頼を受け、戸惑いながらもうれしく、あらためて歳月の流れを感じ、高校時代を振り返ってみると卒業以来二十七年が過ぎていました。そして幾多の思い出が懐かしく思い起こ

仕事をしながら、悩み、仕事の行き詰まりなどに直面して

毎日が『うーん、たいへんだぞ』

第16期生 星野美砂代
(いずみ幼稚園勤務)

幼いころから胸に抱いていた幼稚園の先生。保育者になって初めて三歳児の担任になりました。十数年、ずっと五歳児の担任だったので一番小さいクラス：『うーん、たいへんだぞ』と簡単に言葉で現実を予想してしまいました。

母親から離れず泣いている子、登園してから思い出して泣き出す子、半面何もかも、もの珍しくて興味を示し走り回る子とさまざま。ある日、一人の女の子がそっと寄ってきて一言「お母さん」と手を握った時、ハッと

機心があれば大きく立派になった育英高校を訪問したいと思えますので、その時は、よろしくお願いいたします。同窓会の皆さまも、私の会社にお出かけの際は、一声おかけください。

『愛』をもって一人ひとりの気持ちを受けとめ、個性を大切にしていきたいと思えます。ちびっこギャングたちは元気いっぱい、いろいろな冒険を楽しんでいます。私もいつまでも気持ちちは、ちびっこギャングで頑張ります。

思ったのです。「先生」という姿勢でなく『お母さん』という寄りどころでいいんだ」とい

体力には自信がりましたが、一日終えるごとに『今日も無事



子どもの個性を大切にしています

後援会だより



少子化進む21世紀 困難乗り越え飛躍

前橋育英高等学校
後援会会長 前田 勇

わが前橋育英高等学校は中村理事長先生、樋口校長先生はじめ教職員の先生方のご熱意あふれるご教導のおかげで、文武両面にわたり立派な実績を挙げ、伝統ある私学の名声を高められ誠に同慶の至りであります。しかし、順調な学校の発展ぶりを心から喜ぶとともに今後に目を向けた時、気になるのは、到来しつつある少子化社会であ

ります。このような少子化は、就学者数の減少につながり、私学の今後の行方大きな影響を及ぼすこととなります。学校の特色と教育環境、教育内容が一層きびしく評価される時代になつてまいります。子弟の母校の永遠の発展を願うものとして、私たち自身もとより、学園経営理事者と教職員

の先生方の心と力を一つとして

て相互理解と相互協力により、建学の精神を高揚し、学園・学校の体質強化を図るべき重大な時です。

その対策に着手し、困難なハードルを立派に乗り越えるべきでしょう。少子化が進む二十一世紀に群馬育英学園、前橋育英高等学校、育英短期大学がさらに躍進発展されますよう心から祈念するものです。

校庭整備に威力

すぐれ者 バイブロ・レーキ寄贈

第三十一回県高校総体で六度目の男子総合優勝を飾り、スポーツの育英の名をいやが上にも高めてくれました。新聞を開くたびに「育英」の名を見て、後援会としてはうれしく、また誇りにさえ感じています。

真夏には酷暑の下、真冬には北風の中、さしもの広いグラウンドも固く締まったり、石が出てきたり。そこで後援会で高性能の土砂攪拌機「バイブロ・レーキ」一式を寄贈しました。

グラウンドでは毎日、朝に夕に生徒の皆さんが、授業に部活に汗を流し走り回っています。

贈呈式は、七月二十四日に高校校庭で行われ前田会長から中村理事長に目録が渡されました。同時に機械の試運転が行われま

したが、さすが一式百四十万円というすぐれ者、大いに威力を発揮。今後の体育授業の準備・部活後の校庭整備に効果的活用が図れるものと期待が寄せられました。



校庭整備で威力を発揮するバイブロ・レーキ

平成8年度後援会総会

予算案など満場一致で可決

平成8年6月29日(土) 於・群馬厚生年金会館

本年度の総会は六月二十九日、新前橋の厚生年金会館で午後四時三十分から開かれ大勢の会員が参加されました。前田会長、中村理事長のあいさつに続き、学校から近況報告を受け議事に入りました。

平成七年度の事業報告(各部署への活動援助費やクラブ振興基金、生徒会ワゴン車の贈呈)がされ、決算報告とともに承認されました。次いで新役員の改選が行われ、前田会長の再選と現父兄会役員の方々を含め、新役員が決定。平成八年度の計画としては、さらなる特別会員の

募集、校庭整備のためのバイブロ・レーキの寄贈、秋の研修視察などが提案され、総額二十万円余の予算案とともに満場一致で承認されました。なお、今年度の新役員の方々の氏名については相当な数となりますので紙面の都合で割愛させていただきますが、後援会長に前田勇氏(昭和五十八年父兄会長)が再任、副会長に手島安栄氏(現父兄会長)が新任、他の副会長(歴代父兄会長)と合わせ二十一人の正・副会長が誕生しました。

コラム

「世界詩人会議」が「水と緑」と詩のまち」と言われる前橋で開催され、萩原朔太郎記念前橋文学館を中心に各国の詩人たちが交流しました。ちなみに朔太郎が生まれて、今年百年になります。本当の価値というのは百年くらいたないと理解さ

れないのかもしれませんが。百年といえば、同じく詩人の宮沢賢治の生誕百年ということで一種のブームが起き、テレ

の評価がとみに高まっています。賢治の言葉に「世界ぜんたい幸福にならないうちには、個人の幸福はありえない」というのが

とであり、教育が国家百年の計と言われる所以でもあります。このことは前橋育英の建学の精神である、「つねに国際的視野に立って、世界平和と社会の福祉に貢献できる人材の育成を期する」にも合致することです。

百年の計

ビ・映画・本屋の店頭でも賢治オンパレードでした。賢治は詩人であると同時に教育者でもありました。近年、教師宮沢賢治

あります。人間と社会全体の幸福を追求する理想主義が感じられます。教育とは、そういった理想を追求する人材を育てるこ

目前となった二十一世紀、育英建学百年目の理想の姿を胸に描くのも、また楽しいものです。(S記)